

○計画策定の趣旨

私たちは、今、時代の大きな転換点に立っており、今までの暮らし方を見つめ直すとともに豊かさや幸せの新たな尺度が求められている。この計画により、長野県の将来像を県民と共有し、一緒に創り上げるための方向性や方策を明らかにする。

○計画の性格

直面する課題に向き合い、将来像をめざして確かな一歩を踏み出す、県政運営の基本となる総合計画

○計画の期間

平成25～29年度
(5か年間)

◎第1編 現状認識

○時代の潮流

1 到来した人口減少社会

長野県では、人口が今後20年間で約30万人減少し、生産年齢人口が減少、老年人口が増加する見込み。世帯数は平成29年をピークに減少するが、特に高齢者単身世帯は増加する見込み。
(1) 地域社会の活力の低下 (2) 高齢者を支えるシステムへの不安

2 価値観の変化

人々の価値観が変化し、モノの豊かさに加え精神的な満足感や暮らしのゆとりを重視するようになっている。また、東日本大震災は、人とのつながりを意識し、生き方を見つめ直すきっかけとなった。
・光を放つ長野県の心安らぐ暮らし

3 成熟した経済

物質的な豊かさが相当程度実現された上、今後人口が減少していくことから、かつてのような国内需要の大幅な伸びは期待できない。
(1) アジア新興国市場の拡大 (2) 重要性を増す新分野への進出と新商品の創出

4 変革が求められる社会システム

社会保障制度や国・地方の財政基盤の持続可能性が危ぶまれており、これまでの延長線上だけでは解決できない様々な限界が明らかになった。
(1) 厳しさが続く財政状況 (2) 重みを増す共創・協働 (3) 拡大が求められる自然エネルギー利用

○長野県のポテンシャル

1 大地から与えられた恵み

- (1) 美しく豊かな自然環境
- (2) 大都市圏への近さ・交通の結節点

2 先人が築いてきた努力の賜

- (1) 全国トップレベルの健康長寿
- (2) 教育を大切にす風土と県民性
- (3) 伝統を受け継ぐ地域
- (4) 企業家精神を育む土壌

3 際立つ地域の個性

◎第2編 長期的な県づくりの方向

○「未来の信州」に向けて ～『信州』を磨く～

○基本目標

確かな暮らしが営まれる美しい信州

○私たちがめざす「未来の信州」のすがた

1 世界に貢献する信州

- (1) 世界をリードする最先端産業
- (2) 世界品質の農林産物
- (3) 世界をひきつける信州の魅力
- (4) 知の拠点

2 「豊かな」ライフスタイルを実現する信州

- (1) 心潤う信州の暮らし
- (2) 人生を彩る感動との出会い
- (3) 自然からのお裾分け
- (4) どこでも営まれる快適な暮らし

3 誰にでも居場所と出番がある信州

- (1) 一人ひとりの自己実現
- (2) 子育て応援先進県
- (3) 認め合い支え合う社会

4 健康長寿世界一の信州

- (1) 生涯にわたる健康づくり
- (2) 生きがいが生み出す元気な暮らし
- (3) 健康長寿を支える保健・医療

5 一人ひとりの力を高める信州

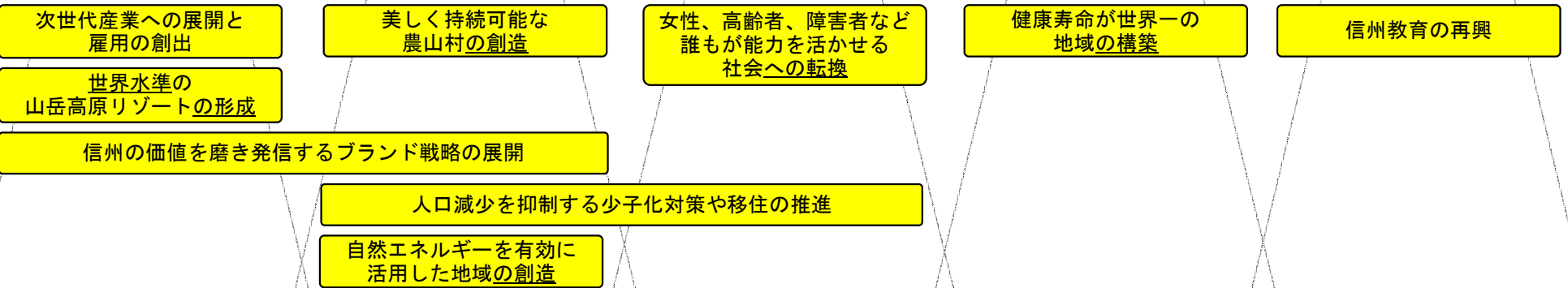
- (1) 人間力を養う
- (2) 楽しい学び舎
- (3) 自然の中でたくましい育ち
- (4) 個性輝く子どもたち
- (5) 常に学び自ら活かす

(5年間の取組)

◎第3編 「未来の信州」に向けたプロジェクト

○信州未来プロジェクト 「私たちがめざす『未来の信州』のすがた」に向けて確かな一歩を踏み出す先駆的・先導的取組

(プロジェクトの方向性)

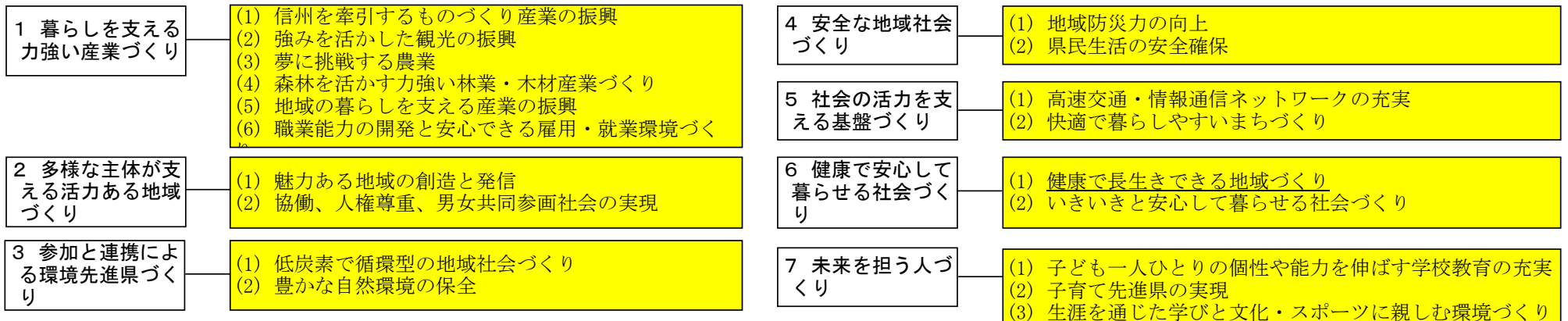


○「未来の信州」を支える仕組み

- 1 分厚い層が支える共創・協働の社会
- 2 信州独自の自治による自立度の高い地域
- 3 交流・連携を深めるネットワーク型社会

◎第4編 施策の総合的展開(全体像)

「信州未来プロジェクト」の取組に加えその他の着実に進める主要な施策を、県民の暮らしに即して7つの分野に整理・体系化し、総合的に推進



◎第5編 各地域がめざす方向とその方策

◎第6編 計画を推進するための基本姿勢

- 1 行政・財政改革の推進
- 2 市町村との協働
- 3 政策評価・事業点検による実効性の確保
- 4 計画の見直し

※網掛けの項目は、答申を受けた後、県が計画(案)の中で、施策の主な取組や達成目標などを明らかにする。